

(別紙)

第 44 回(平成 27 年度)全国豆類経営改善共励会

〈大豆集団の部〉

のうじくみあいほうじん ほんどえいのうくみあい だいひょう こばやしゆきお
農事組合法人 本戸営農組合 代表 小林行夫
(岐阜県安八郡輪之内町)

品種名	大豆作付面積	単収	作業時間	費用合計	上位等級比率
フクユタカ	9.8ha	172kg/10a	2.57時間/10a	11,338円/60kg	82.0%

- 本組合は、集落内の農地の維持・管理を目的として平成 16 年 12 月に任意の営農組合として発足し、個人農家の負担を軽減するとともに農地を荒廃させないように農業生産活動を継続してきました。その後、平成 21 年 5 月に法人化し、現在の農事組合法人本戸営農組合になりました。
- 平成 27 年度の経営面積は、水稻 10.4ha、小麦 11.4ha、大豆 9.8ha 及びブロッコリー1.2ha の計 32.8ha となっています。地区内の全農家(20 戸)で構成される本組合は、農地集積率 100%となっており、2年3作体系での栽培が確立し、大豆の栽培面積は転作の増加に伴い徐々に増加しています。また、農事組合法人となった平成 21 年からは水田でブロッコリー栽培も行い、冬期の雇用を創出する等、積極的な水田の活用により経営の安定化を図っています。
- 適期作業と基本技術の励行により、岐阜県の大豆の平均単収を大幅に上回る収量を確保しており、平成 27 年産は長雨等の影響を受け、県単収は前年産(117kg/10a)を下回る 103kg/10a であったものの、本組合は前年産(144kg/10a)及び県単収を大幅に上回る 172kg/10a でした。
- 大区画水田(最大区画 1.2 ha)を集積した団地化により効率的な作業を行い、適期内で確実に作業を進めるよう努力しています。他の営農組合では省略されがちな中耕・培土等の基本技術を着実に励行し、暗渠、排水対策の有効活用により大豆の健全な生育を確保しています。また、土壌処理剤と中耕による防除体系で雑草の発生を抑制しています。
- 実需者から評価の高い「フクユタカ」を栽培しており、適期防除、除草対策の徹底により高品質の大豆生産を行っています。また、化学肥料、化学合成農薬の効率的な使用と節減を目的とする「ぎふクリーン農業」(化学肥料、化学合成農薬の使用量を従来の栽培と比べいづれも 30%以上削減した栽培)に取り組み、売れる大豆づくりに励んでいます。
- 地域ぐるみの集落営農活動により地区内で 100%の農地を集積し、また、優れた営農計画により高い収量性を確保し、農事組合法人設立後は安定的な経営を実践しており、近隣の営農組織の模範となっています。